

[平成11年 決算審査特別委員会(一般会計・特別会計)]-[12月13日-06号]-P.259

◆青山圭一 委員 それでは、一問一答にて、建設局長に向ヶ丘遊園駅菅生線の整備について、まちづくり局長には登戸土地区画整理事業について、環境局長には生活環境事業所について、それぞれ伺います。その前に、建設局長に1点要望をさせていただきます。

向ヶ丘遊園1号踏切の整備について要望をいたします。小田急線向ヶ丘遊園駅周辺には登戸1号線踏切と向ヶ丘遊園踏切とがございますが、双方の踏切とも、特に朝夕のラッシュ時においては列車本数の関係からあかす踏切となり、市民の足を妨げております。小田急線複々線化工事事業に伴い、登戸1号線については本市と小田急電鉄との間で、その問題を改善すべく協議が行われていると伺っております。向ヶ丘遊園1号踏切につきましても何らかの改良をしていただくよう、小田急電鉄に対しましてぜひ働きかけてくださいますよう要望をさせていただきます。

それでは、質問させていただきます。建設局長に向ヶ丘遊園駅菅生線の道路整備状況についてお伺いいたします。平成10年度の決算額によりますと、向ヶ丘遊園駅菅生線の調査測量設計委託費は94万5,000円、また、道路改良工事費は1億2,696万1,950円、さらに土地購入費及び物件補償費は3億4,810万8,674円ということでございますが、この道路の早期整備完了を推進すべきであると考えます。と申しますのは、この道路は、ことし秋にオープンいたしました岡本太郎美術館への交通アクセスとして非常に重要であるからであります。岡本太郎美術館への来館者は当初の予想を上回り、オープンから1ヵ月の来館者数は延べ3万1,614人に上り、1日平均当たり1,170人の来館者が記録されております。また、地元の方々からも早期に整備をしてほしい、こうした強い要請もあります。現在の進捗状況と今後の見通しにつきましてお伺いさせていただきます。

◎引野憲治 建設局長 多摩区内都市計画道路向ヶ丘遊園駅菅生線についてのご質問でございますが、初めに、進捗状況でございますが、この路線は民家園入り口を中心とした延長約730メートルの区間を事業中とございまして、平成11年11月末現在の用地取得率は約89%となっております。このうち、民家園入り口付近約280メートルの区間につきましては整備が完了し、本年8月末に供用開始したところでございます。

次に、今後の見通しについてでございますが、今後とも早期整備を目指し、残る用地の取得に向けて、関係地権者のご理解を得るよう、なお一層の努力をまいります。以上でございます。

◆青山圭一 委員 ご答弁ありがとうございます。一層の努力をするということですが、上り坂の狭い道路付近の整備が非常におくれているため、車がなかなかすれ違えなかったり、あるいは人と車とが接触しそうになったりと、大変危険な状況が続いております。岡本太郎美術館がオープンして以来、今後ますます交通量がふえることが予想されます。ぜひ早期の整備を要望いたします。

続きまして、まちづくり局長に登戸土地区画整理事業につきましてお伺いいたします。

平成10年度の決算によれば、登戸土地区画整理事業は予算約25億円に対しまして約22億円であります。登戸地区は本市のいわば副都心として位置づけられており、また、JR南武線と小田急線の交通連結地点でもあります。しかしながら、依然として都市基盤整備が

進まない状況にあります。登戸土地区画整理事業は住宅密集地での開発であり、全国的に見てもこのような地域における区画整理事業は難しいと言われております。しかし、本件は新・中期計画、2010プランの重点計画事業にも挙げられており、一日も早い事業の完成が望まれるところであります。

そこで、何点か伺います。1点目、現在の進捗状況と今後の見通しにつきまして、2点目、区画整理事業に伴い、移転を余儀なくされている反対住民への対応策について、3点目、区画整理事業が進まない中で、地元商店街への活性化対策につきまして、4点目、向ヶ丘遊園駅前、登戸駅前の拠点整備について、5点目、登戸1号線の整備の状況と今後の見通しについて、それぞれお願いをいたします。

◎黒岩清忠 まちづくり局長 登戸土地区画整理事業についての幾つかのご質問でございますが、まず、現在の事業進捗状況についてでございますが、11月末現在におきまして、仮換地指定面積といたしましては7万1,686平方メートル、進捗率は27.2%となっております。使用収益開始面積は3万3,235平方メートル、進捗率は12.6%、建築物等移転棟数は189棟、進捗率に直しますと13.9%でございます。

次に、今後の見通しについてでございますが、新・中期計画に基づき事業を進めてまいりますが、平成11年度からの5年間におきましては建築物等移転棟数は340棟を予定しております。平成15年度末の進捗率といたしましては約37%を見込んでおります。

次に、区画整理事業にご協力を得られない方への対応についてでございますが、区画整理事業へのご理解を得るよう、さらに努力をしてみたいと存じますが、しかしながら、事業展開を進めていく上でご協力が得られず、事業に支障を来すようであれば、予定を変えて他の地区への事業展開を図っていく必要があると考えてございます。

次に、地元商店街への活性化対策についてでございますが、平成10年度には登栄会商店街通りに下水道を布設しております。また、今年度中に都市計画道路登戸3号線が整備され、東通り商店街通りと接道いたしますので、現況の道路の下に下水道を布設する計画で検討を進めているところでございます。このように、現況の道路と計画道路とが重なる区域におきましては、下水道を布設するなど、できる限り環境面の整備を図り、商店街の活性化に寄与してみたいと考えております。

次に、向ヶ丘遊園駅北口についてでございますが、都市計画道路登戸1号線の整備を行う計画でございますが、1号線に接する駅北口周辺地区につきましても早期に整備を行ってみたいと考えております。また、登戸駅交通広場につきましては、関連する登戸駅南北自由通路などとの整合を図りながら平成15年度を目途に整備する計画でございます。

次に、都市計画道路登戸1号線についてでございますが、未整備区間180メートルのうち、今年度内に多摩区総合庁舎側から向ヶ丘遊園駅に向かって約50メートルの区間を、計画幅員は16メートルではございますが、歩道を含め、幅員10メートルの暫定整備を行ってまいります。また、残りの未整備区間約130メートルにつきましては、現在、関係する権利者の方と交渉を進めているところでございまして、ご理解を得るよう、なお一層の努力をしてみたいと考えております。以上でございます。

◆青山圭一 委員 それぞれご答弁をありがとうございます。

それでは、登戸駅前拠点整備につきまして、年度別のスケジュールを具体的にお示しく
させていただきますようお願いいたします。

◎黒岩清忠 まちづくり局長 登戸土地区画整理事業についてのご質問でございますが、
登戸駅交通広場整備につきましては、平成12年度に概略設計、平成13年度に詳細設計、そ
して平成14年度に整備に着手する計画で検討を進めております。以上でございます。

◆青山圭一 委員 ご答弁をいただきましてありがとうございます。年度別のスケジュー
ルどおり本事業が推進されることを強く要望いたします。さらに、登戸駅周辺の77, 78,
79街区の地区の方々を中心とした登戸駅前整備についての勉強会が実際に行われておりま
す。このことにつきましても十分に考慮され、今後、地元の方々と一体となり、積極的な
事業への取り組みを要望いたします。

次に、環境局長に生活環境事業所について幾つかお尋ねいたします。平成11年10月1日
現在、市内において生活環境事業所は全部で6カ所あり、市内の53万6,649世帯をこの6カ
所で所管していると伺っております。中でも、特に多摩生活環境事業所においては、本事
業所だけで多摩区、麻生区合わせて14万2,720世帯全域を所管しているという驚くべき現状
となっております。市内の全世帯数53万6,649より6カ所の事業所のうち、1カ所当たりの
事業所が所管する平均世帯数を考えてみますと、それは約8万9,000世帯であることがわか
ります。しかしながら、多摩生活環境事業所が所管している世帯数は14万2,720にも上り、
事業所平均所管数をはるかに上回るばかりでなく、市内全世帯数の約4分の1を本事業所
だけで占めていることとなります。

このように、本事業所が余りにも多くの世帯を所管し、偏った業務量であるという現状
であっても、市民の皆様に対しまして常に迅速な対応を望むところであります。しかしな
がら、実際、地域の方々より、粗大ごみを出したいと思い多摩生活環境事業所に連絡して
も、なかなか電話が繋がらない、あるいは何回電話しても一向に繋がらない、一体ど
うなっているんだ、クレームを言おうにも電話が繋がらないのでどうしようもないとの
声も聞きます。さらに、こうした声は多摩区、麻生区にとどまることなく、高津区及び宮
前区を所管している宮前生活環境事業所に対しましても及んでいるようであります。

そこで、冒頭、具体的数字を示しました多摩生活環境事業所についてお尋ねいたしま
すが、最近の電話の着信状況、また、平成10年度の粗大ごみ受け付け件数及び受け付け体制、
また、今後の改善策、さらに、本年7月より3ヵ月間、本事業所は粗大ごみ処理施設の改
修に伴い一時業務を休止され、10月より業務を再開されましたが、業務休止前後の状況に
ついてお聞かせください。

◎瀧田浩 環境局長 多摩生活環境事業所の電話の受け付け体制等についての幾つかのご
質問でございますが、初めに、電話の着信状況についてでございますが、過去にNTTの
協力を得て実施いたしました調査によりますと、1日平均で1,673件の着信がございまして、
このうち57.2%に当たる957件が話し中となっております。また、特に電話の集中する月曜
日には1日に4,000件以上の着信がございまして、その70%が話し中となっている状況で
ございます。

次に、平成10年度の粗大ごみの受け付け件数でございますが、約11万件でございます。

次に、現在の受け付け体制でございますが、事業所の職員30名のほかに、電話受け付け要員として臨時職員3名と非常勤嘱託員2名により電話の応対を行っております。しかしながら、職員30名につきましては、ごみ、し尿浄化槽などの収集計画の作成や調査、指導が主要な業務でございますが、ご指摘のような状況が生じております。したがって、今後の改善策として、現在、粗大ごみの受け付け業務を委託化するシステムの導入を検討しているところでございます。

次に、粗大ごみ処理施設の改修に伴う業務休止前後の状況でございますが、休止に当たりましては、当該地域の皆様に対しまして各戸配布などの事前広報を行い、6月以前の申し込みをお願いしたことなどによりまして、再開後も申し込み件数、着信状況とも休止前とほぼ同じ状況でございます。以上でございます。

◆青山圭一 委員 答弁によりまして、1日当たりの平均電話着信件数は1,673件にも及び、そのうち話し中の割合は57.2%という驚くべき数字でございます。さらに、月曜日は話し中の割合が何と70%に上るとのことですが、この数字から考えましても、こうした状況では市民が電話をかけてもなかなか連絡がとれないというのは当然の結果だと思います。私も、きょうは月曜日でございますので、こちらの控室に來まして電話を試してみました。五、六回ぐらい電話したんですが、やはり通じませんでした。こうした状況を改善すべく粗大ごみ受け付け業務の委託化を図っていくとのことですが、その具体的な内容、そして、いつごろまでに実現をお考えなのか、伺います。

◎瀧田浩 環境局長 粗大ごみ受け付け業務の委託化についてのご質問でございますが、市民の皆さんには大変ご迷惑をおかけしておりまして、その早期改善が必要と考えております。現在検討しております粗大ごみ受け付けシステムは、20名ほどの受け付け要員を配置するなど専門的な受け付け体制とするもので、多摩生活環境事業所を含む全市を対象として検討しておりまして、関係局と協議の上、できるだけ早い時期に実施してまいりたいと考えております。以上でございます。

◆青山圭一 委員 ご答弁ありがとうございます。業務の委託化につきまして、ある程度の具体的な案が示されました。大変に期待するところでございます。特に、この時期になりますと、年末の大掃除に伴い、家庭での粗大ごみが非常に多く出る時期でもあります。市民の事業所への関心はますます高まるばかりでございます。したがって、ぜひとも検討を重ねていただき、年度こそ明確な時期は言われなかったんですが、早期にやっていたらということでございますので、早期の実現を強く要望いたしまして、私の質問を終わります。